

文部科学大臣賞

学校教育部門

「インタ - ネットを用いた生徒指導実践」

石川県立小松工業高等学校

〒923-8567 石川県小松市打越丙67 URL : <http://www.kth.ed.jp/>

実践事例報告の概要

本校は、専門高校であるため、遅刻・欠席をしないように重点指導を行っている。しかし、遅刻者に口頭指導で注意しても、あまり効果が上がらなかった。ところが、本校HPにて、生徒指導部作成の「毎日遅刻予報」をおもしろおかしく掲載してから、驚くほど遅刻が減少した。インターネットによる効果が今回顕著に表れたので、その実践事例を報告する。

実践のねらい

今日の現代社会が向かっている方向はどのような方向性であるだろうか？ と問われたとすると、誰もが“高度情報化社会(IT時代)”と言うだろう。また、この学校教育界の中にもその流れが脈々と流れているのが事実であり、“インターネットを活用した教育、情報技術教育、マルチメディア教育等”が盛んに行われている。それゆえ、それを用いた教科指導等においては、すぐれた実践報告をよく目にする。これは、学校教育内での“情報教育”がかなりの割合で浸透してきたためだと思う。

しかしながら、本実践対象のように“生徒指導”の分野における情報教育を用いた指導は、いまだかなりの遅れをとっているように感じられる。従来、いや、現在においても生徒指導とは、“生徒の心の教育”に重点が置かれている。それゆえに指導する側においても“心”で生徒に指導することが常套手段である。つまり、心と心の指導であるがゆえに、高度な技術や機器などは不要のものであると見なされている。言い換えれば、少し語弊はあるかもしれないが、“心と心の教育=アナログ世界”と“高度情報化時代=デジタル世界”とは相反する世界であるため、うまく折衷することが困難な現状である。それゆえに、実際に生徒指導分野等にてインターネットを用いた教育実践に関する指導報告を目にすることが極端に少ない。それより、皮肉にもまったく逆の、インターネットに関する生徒たちを巻き込んだ恐ろしい事件をマスコミの報道でよく目にする。たとえば、携帯電話の出会い系サイトでの事件などである。

インターネットは、知識を広める・最新の情報を得ることができるなどの良い影響を生徒たちに及ぼすにも関わらず、その反面、いくつかの悪影

響をも及ぼしている。このように、生徒たちに、なんらかの強い影響を及ぼしているのがインターネットであり、また、生徒たちには非常に魅力的かつ刺激的な世界として写っているのが事実である。

そこで、本実践においては、未だ情報化という点で実践されていない“生徒指導”という分野にいかにして情報化を組み込んでいくか、特に、生徒たちが非常に興味を抱いている、かつ、生徒指導上問題にもなっているインターネットを用いて、生徒たちにとって効果的な利用方法への探究を第一の目的とし、さらに、インターネットの最大の強みである情報の広域化を利用して、本校生徒指導部への提出書類関係のWeb化を行い、生徒自身がその書類を“いつでも、どこでも”ダウンロードし利用できるようにすることを第二の目的として、本実践を実施した。

特徴・工夫・努力した点

本実践においての特徴を述べることにする。本実践は、インターネットの“情報の共有化”と“情報の広域化”、“情報の利便性”を利用して行ったものである。そこで、今回は生徒指導の分野におけるインターネット利用ではあるが、特に重点をおいたものは、次の3点である。

- 遅刻撲滅運動推進(情報の広域化・共有化)
- 月別生活目標のお知らせ(情報の広域化・共有化)
- 学校関係手続き書類のWeb化(情報の利便性の認識)

まず、の遅刻撲滅運動推進において述べることにする。今回の実践において一番力を入れた項目である。この実践では、学校全体の遅刻者を減

少させることが第一の目的である。本校は、専門高等学校であるため、卒業と同時に大半の生徒が就職することになる。したがって、社会に出る者の最重要課題は、“遅刻をしない”ということである。そのため、本校の指導では、“遅刻をなくすこと”を学校全体で力を入れている。また、遅刻の原因を調べてみると“生活の乱れ”や“学校への興味の薄れ”等から生じるものが大半を占めている。つまり、生活の乱れや学校への興味が何とか改善することが、遅刻を減少させることに結びつくのである。そこで、今回行った対策が、生徒指導部から“生徒たちへの情報発信・声かけ”であり、その一環としてホームページの立ち上げを行ったのである。

このホームページは、従来の一般的なホームページとは違い、事実の羅列をすることを避け、常に生徒たちに問い掛ける姿勢のホームページにするように工夫した。いくらデジタル世界の代表選手であるインターネットであっても、できるだけアナログ世界らしさを出したいというのが製作者の強い希望であり、工夫した点であった。そうして実施されたのが、通学予想（毎日更新）や月別生活目標、学校関係手続き資料等が納まったものである。

通学予想とは、毎日登校時の「天気、自転車通学者（本校は自転車通学者が多い）のための風向予想、遅刻危険度、アドバイス」を生徒たちに知らせるものであり、毎日更新している（資料1）。月別生活目標とは、本校の月別の生活目標を知らせるページであり、従来は、校内各所に張り出していたものをWeb上で公開し、かつ、季節感を伴うものにした（資料2）。学校関係手続き書類資料とは、特に生徒指導部へ生徒自身が提出することを義務付けられている書類（アルバイト届、異装願、公認欠課届、学割交付願）をPDF化してWeb上に公開し、“いつでも、どこでも”生徒たちが利用できるようにした（資料3）。

以上のように、今回公開されたホームページは、技術的な点においては、なんら画期的なものはない。しかしながら、繰り返し述べるが、従来のホームページのように事実の羅列とは一線を引き、相互（生徒と教師）のやり取りを重視した点、つまり、生徒自身に問い掛ける点が大きく異なっており、その点が工夫、努力した点である。また、この情報を受ける生徒間でも強く感じている“情報化された生徒指導部の意外性”を期待して、このホームページが生徒自身に急速に普及することを狙った点もここで述べておく。

資料1・通学予想



特徴

通学予想は毎日更新
天気が漫画的になっている
自転車通学者のための風予想
遅刻危険度（高・中・低）
アドバイス

資料2・月別生活目標



特徴

月別生活目標がイラスト入りで毎月更新される

資料3・届け出書類一覧



特徴

生徒指導部に届け出が必要な書類がPDF化されており
即座にダウンロードして使用できる
アルバイト届、異装願、公認欠課願、学割交付願

実践内容

まず初めに、本校の情報教育機器環境について述べることにする。本校においても情報教育は、非常に活発に行われている。そのため、情報教育機器環境において石川県下でも有数の施設である。生徒たち自身もパソコンによる授業やインターネ

写真1・パソコンを使用する生徒たち



ットに携わる時間が長いのが特徴である。中でも、10台という数のパソコン（インターネット利用可能）ではあるが、常時（授業および休み時間等）生徒に自由開放しているところは県下でもまれである。そのため、生徒たちにとってはインターネットが生活の一部となっているように思われる（写真1）。以上のように恵まれた環境にて、本実践が行われている。

まず、生徒たちに、生徒指導部がホームページを作成し、公開したことを知らせることからこの実践が始まった。その公開の手段として行ったことは、学校全体のホームページ（資料4）に生徒指導部のホームページが出来たことを紹介してもらうことであった。本校のパソコンでインターネットに接続する時には、必ず起動画面が本校ホームページになるようにしてあるため、1週間もすると生徒たちは生徒指導のホームページができたことを知っていたようであった。

次に、毎回、生徒が興味を持ち継続的に生徒指導部のホームページを見て、そのうえ、先ほど述べた遅刻撲滅運動推進効果をもたらすような内容にしなければいけないと考え、“週間の通学予報”をホームページに掲載した。内容は、日付、天候、自転車通学者のための風向予想、遅刻危険率、遅刻しないためのアドバイスが書かれているものである。生徒たちの興味を引くように、アニメーション等を用いて楽しいものにするように心がけた。

また、学校での提出書類（学割証明書、アルバイト届等）を“いつでもどこでも”生徒自身がダウンロードし、用紙を取得できるようにした。この用紙は、従来、生徒指導部に保管してあったため、生徒自身が使用したい時にわざわざ取りになければならなかった。しかし、“いつでもどこでも使用できる”ようにして、そのうえ、インターネットからのダウンロード技術および知識を学んでもらえるように配慮した。つまり、必要（提出し

資料4・小松高等学校のホームページ



なければならない用紙の取得）こそ最大の知識（ダウンロード技術）の取得であるという考えを本実践にて実現した。

実践結果

本実践は、平成14年4月に立ち上げた、まだ日の浅いプロジェクトである。そして、いまなお進行中のプロジェクトでもある。立ち上げ当初は、このホームページを生徒たちが閲覧しているものかどうか製作者としては非常に心配であった。このホームページを閲覧し、そして継続的に見てくれないと、このプロジェクトは効果的に働かないからである。

心配していたにも関わらず、このホームページを立ち上げ後、生徒たちのなかに急速に浸透していくことが感じられた。本校では、毎朝、学校前に職員が立って“挨拶運動”を展開している。この挨拶運動の最中に生徒たちから“見たよ！ホームページ！予想はずれたね！”という声を耳にすることが多くなった。このことにより、かなりの生徒がホームページを閲覧してくれていることがわかった。また、生徒たちに“なぜ生徒指導部のホームページを見たの”と聞いてみると、以下のような答えが大半を占めた。

「生徒指導部は、僕たちにとっては非常に苦手なところですよ。そのため足は遠のき、生徒指導部は未知のところでした。生活が乱れれば指導されるところだと思っていました。しかし、ホームページに掲載されることにより、どんなことが載っているのが非常に興味が湧いたため見ました」ということであった。また、「毎日、通学予報を見ると、楽しいアドバイスや、自転車通学者のための風向予想などが書いてあり、本当にこの予想が当たるかどうか楽しみに学校に来るようになりました」とも話していた。

実際に一学期における全校遅刻者数は、従来の

通学風景から

朝の挨拶運動

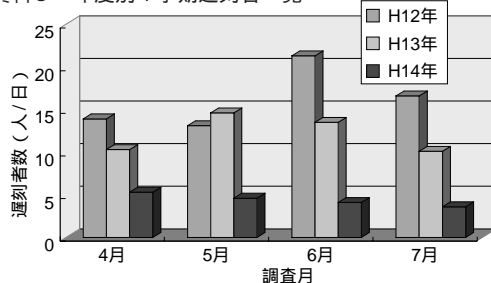


大半の生徒が自転車通学



この時期に比べ激減したことが、資料5によりうかがえる。平成12年度、13年度も同様に、職員による挨拶運動は行われていたにもかかわらず、遅刻者の減少が見られなかった。この点から考えると、本プロジェクトが何らかの影響を生徒に及ぼしたのではないかと推測される。また、当初は、遅刻者数が減少したのは偶然だと思っていたのだが、この一学期を通して月別における遅刻者数をみても、実施時間が経過するほどに効果が現れていることもうかがえるため、本プロジェクトが少なからず作用したのではと思わずにはいられない。

資料5・年度別1学期遅刻者一覧



その他に、手続き関係の書類等についても、従来、生徒指導部のある部屋に取りにきていたものを、ダウンロードを各人で行い、その用紙を提出するという一連の過程が生徒たちには非常に新鮮で斬新なものに感じられたようであり、同様に手続き用紙の提出率も増加したことをここに加えておく。

以上のように、インターネットの最大の有効性である情報の広域化をうまく利用し、インターネットに過敏に反応する生徒たちの心理をつかむことに現段階では成功した結果となった。先ほど述べたように、従来、生徒指導の分野においては高度情報化（インターネットの世界）は無縁のものであった。しかしながら、生徒たちの身の回りにおいては、ここ数年、インターネットによる犯罪に巻き込まれることが多くなった。このような危

険性もあり、有効性もあるインターネットが生徒に対して有効に働いたことは大きいといえる。また、今回の実践は、教科指導等に用いられるような高度で論理的な実践とは決して言えないが、生徒指導の分野においてもインターネット等の高度情報化を行うことが可能であり、何らかの成果があがるという道しるべの役割りが果たせたことは、非常に重要なことであると考えられる。

考察（今後の課題）

先に述べたように、本プロジェクトは実施されてまだ非常に日の浅いものである。今回の成功は、新規性（生徒指導部のホームページ公開）に生徒たちが興味を抱いただけの可能性も否定できない。インターネット界に特有の初期効果（ホームページ立ち上げ時のアクセス数が増大する傾向）であるとも考えられる。今後、このプロジェクトが継続的に行われたときに、いかにして生徒たちの興味を持続させるかが問題となる。通学予約においても、ただ単に予約が当たっても生徒たちの興味を持続させることはできない。技術的なことや、企画の面において、今後、どのように変化させていくかが問題となる。

また、生徒指導の分野においては、IT分野だけの力に依存して成果を上げることは、不可能である。本実践のように、毎日の職員による挨拶運動等の地道な指導があって、その上に、このインターネットを用いた実践があってこそ、今回の結果が生まれたのである。以上から推測すると、生徒指導の分野においては、教科指導に用いるCAIやマルチメディア教育等とは異なり、“インターネットを利用した実践”と“対人（教師と生徒）関係の努力”がうまくバランスを保つことによって大きな成果が上がるということを認識し、この均衡の取れた状態を継続することが、今後の最大の課題といえよう。